



にん けん こい
人間に恋をしたにんぎよのものがたり



はかなくも美しいアンデルセンの名作を
にん き めい さく
人気イラストレーターぽっぷが描いた!







そして、すえのにんぎよひめも
15さいになりました。
しんじゅの花かんむりを頭にのせ、
カキをしっぽにかざって、
うみうえ海の上にむかっておよいでいきました。





。

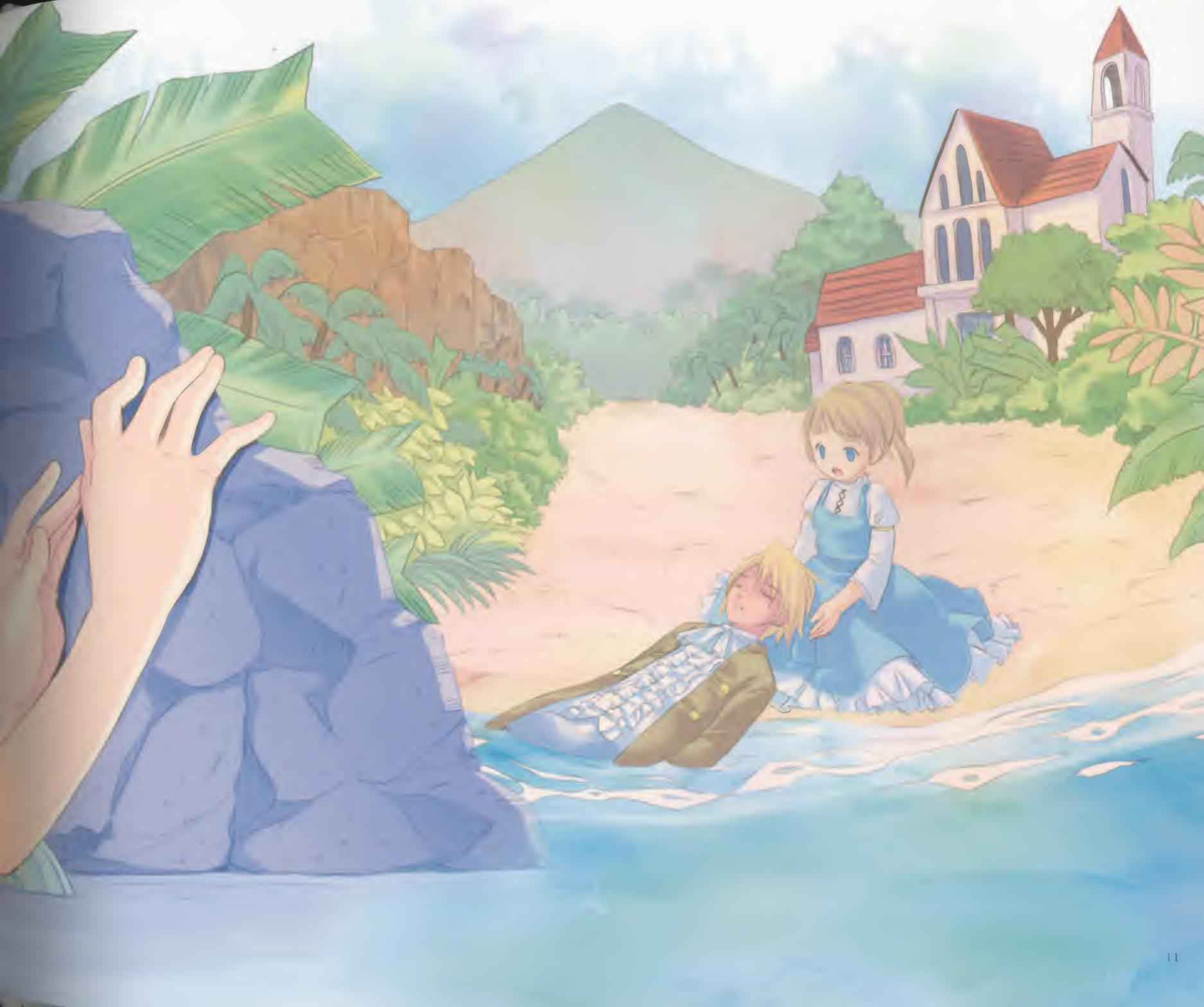
どりつき、

、

ると

いるのね」







にんぎよの國にかえってきても、
にんぎよひめは王子さまのことを
わすれることができません。

「もういちど、会いたい……」

でも、にんぎよのすがたのままでは、
あ 会うことはできません。

「そうだわ、海のまじょに
そ うだんしてみましょう」











しばらくして、王子さまがけっこんすることになりました。

となりの国^{くに}のうつくしい王女^{おうじょ}が、あの日^ひ海岸^{かいがん}で

王子^{おうし}さまを見つけたむすめだとわかったのです。

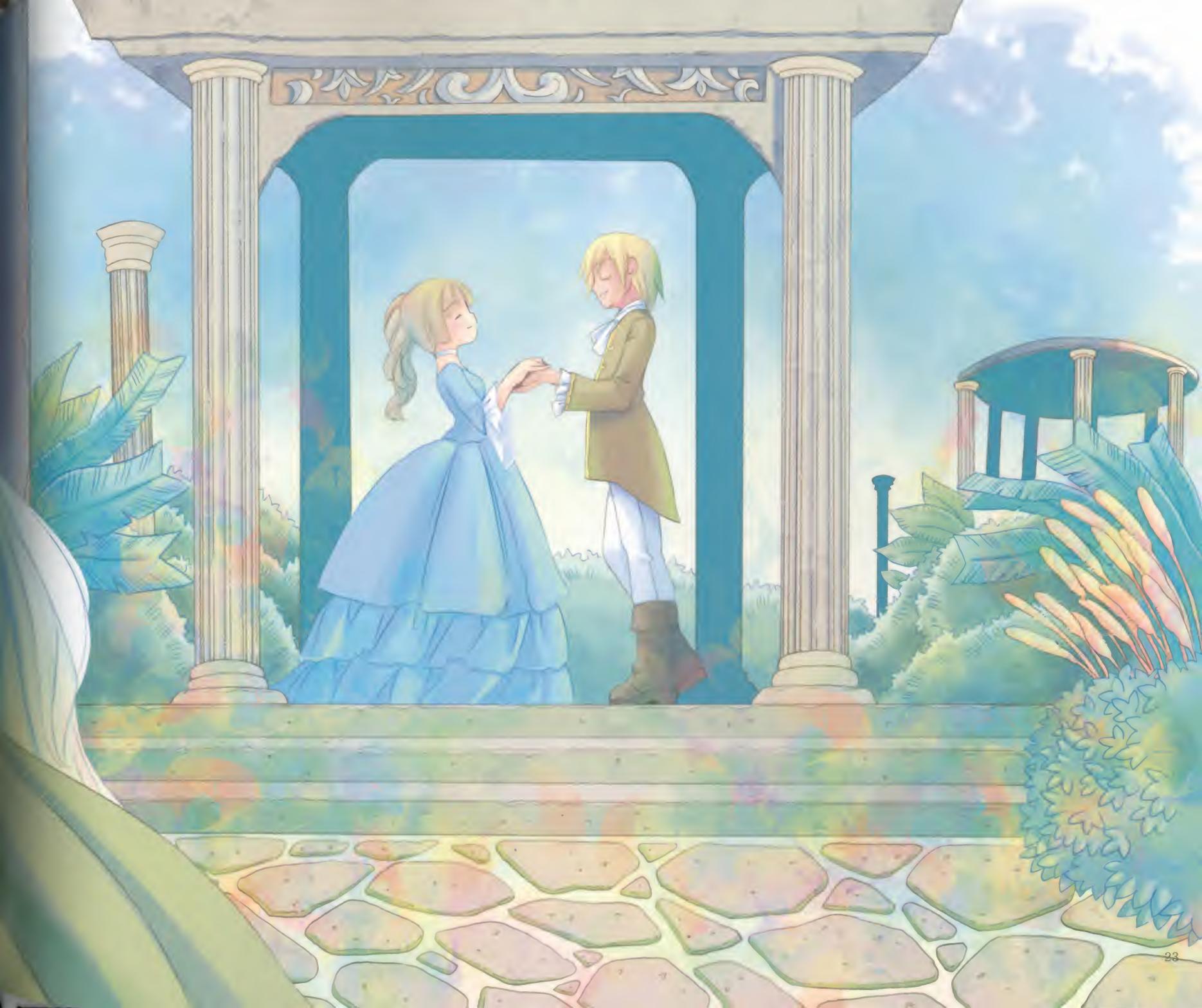
「よろこんでおくれ。いのちをすぐってくれたあの人^{ひと}と
わたしはけっこんするのだよ」

王子^{おうし}さまはうれしそうに、にんぎよひめに言いました。

王子^{おうし}さまは、にんぎよひめをたいへんすきでした。

けれどもそれは、いもうとをかわいがるような
きもちでしかありませんでした。

にんぎよひめは、目の前^{めのまえ}がまっくらになったような気がしました。



けっこんしきのパーティーは、船の上にぎやかにおこなわれました。

にんぎよひめは、かなしみをこらえて、おいわいのダンスをおどりました。

足ははげしくいたみましたが、心をつきさすいたみで、

それもかんじないほどでした。









そしてそれは、バラ色の雲にのって、
空高くどこまでものぼっていました。
雲のあいまに、王子さまのやさしいほほえみが
見えるような気がしました。